

時の顔

「少数者の人権擁護について憲法の理念に沿って議論を重ね、社会に発信していきたい」。1日付で県弁護士会長に就任。かねて弁護士として描いた理想を胸に抱負を語る。

須坂市出身。親族に勧められたことから弁護士に興味を持ち、東京大法学部に進んだ。「困った時に頼られる職業に自分がふさわしいのか」と悩み、司法試験の勉強から離れた時期もあったが、8度目の受験で突破。2000年に弁護士登録し、刑事、民事問



県弁護士会長に就任した

山崎 勝巳さん

わず幅広い仕事を手がけてきた。外国人の被告の刑事弁護で法廷通訳人の誤訳に気付きながら、柔軟に対応できなかったこともある。「うまくいかなかった事件のほつが強く覚えている」と謙虚に振り返る。

県弁護士会では裁判員裁判導入に向け対策委員長を務めた。模擬裁判を重ね、県内初の裁判員裁判の弁護士も担当。導入に反対の会員もいたが「市民が理解できる立証」に取り組む原則を会員に周知し、土まわりに奔走した。間もなく15周年の節目を迎える制度の導入で「審理の過程や判決も含めて透明性が高まった」と感じている。

学校現場でのトラブルに対応するスクールロイヤー制度、災害時の相談対応、犯罪被害者支援など「多様な場面で法律の専門家としての役割が求められている」。そうした負託に応えるためにも「会内に多様な考えの弁護士がいることが重要だ」と語る。

学生時代は剣道に打ち込んだ。趣味は漫画やアニメ観賞。須坂市の自宅で暮らす。56歳。